NANZAN bulletin

南山大学広報誌

vol.154
2005.9.30

CONTENTS

特集 Feature Article
南山大学 人類学博物館

南山大学　2004年度決算　2005年度予算
教育・研究環境整備と財務体質の強化に向けて

Campus Topics
瀬戸キャンパス交流会「コーヒーアワー」

Nanzan Square
地球儀「GLOBE」

私の研究
「社会変化と研究スタンス」
浦上 昌則　人文学部心理人間学科助教授

私のクラス
「教師と学生との対話を通じて学ぶ」
町村 泰貴　法務研究科教授

〈表紙写真:南山大学 人類学博物館展示品〉
右上「Liso族女性上衣」左中「精霊仮面」右下「深鉢」

Special Events

オープンキャンパス

「自分の目で南山大学のキャンパスを確かめてください」とマルクス学長の開会式の挨拶で始まったオープンキャンパス(7月17日開催)は、名古屋キャンパス(以下NNC)・瀬戸キャンパス(以下NSC)合計で4,277名と過去最高の来場者を迎えた。

7学部15学科67の模擬授業には総計で2,239名が参加し、各教室で熱気に満ちあふれた授業が行われた。相談会場では学科内容、入学試験、国際交流、キャリア支援、学生生活など様々なテーマ別ブースで、教職員と在学生が熱心に参加者の相談に応えた。今年度初めての企画であるクラブパラダイスでは、南山大学の魅力のひとつである課外活動の紹介が体育館で繰り広げられ、参加者で満員となった。

相談会場(名古屋キャンパス)

クラブ紹介「クラブパラダイス」(瀬戸キャンパス)

「オープンキャンパス・バスツアー」には、静岡、長野、富山、石川、福井、滋賀などの各都市から、235名が参加した。1日目NNCでのオープンキャンパス、ウェルカムパーティー、2日目NSCでの総合政策学部「オープン研究室」、数理情報学部「体験型模擬授業」と趣向を凝らした数多くの企画に参加し、南山大学を充分に体感することができたであろう。

今年度のオープンキャンパスでは、特に学生広報スタッフの活躍が目を引いた。生き生きとした彼らの姿は、高校生にとって素晴らしく魅力的に映ったようだ。全教職員や学生広報スタッフの協力に感謝しつつ、オープンキャンパスの盛り上がりをいかに今後の広報活動に活かすかが課題である。　(入試課)

Information

後援会定例評議員会 開催

南山大学在学生の父母により構成される「南山大学後援会」の定例評議員会が6月18日、理事・評議員57名の出席のもと、栄の名古屋ガーデンパレスで開催された。

後援会は、大学との共催による父母の集い、後援会会員への印刷物作成・送付、教育・研究活動支援を通じて、本学の教育目的達成に支援を続けている。

主な決定事項は次のとおりである。

1. 2004年度事業報告および決算報告の承認
2. 役員の選任
3. 2005年度事業計画および予算の承認

(学長室)

後援会収支計算書および予算書　(単位:円)

	科目	2004年度決算	2005年度予算
収入の部	前期繰越金	3,603,252	5,906,228
	入会金	2,274,000	2,256,000
	会費	172,230,000	170,000,000
	預金利息	92,001	50,000
	基金運用利息	988,162	1,038,008
	合計	**179,187,415**	**179,250,236**
支出の部	一般経常費援助金	160,000,000	160,000,000
	後援会活動費行事費	1,456,371	1,662,000
	後援会活動費就職活動援助費	1,200,000	1,200,000
	後援会活動費広報費	4,971,815	6,250,000
	後援会活動費事務費	653,839	872,000
	課外活動援助基金積立	4,000,000	4,000,000
	課外活動援助基金積立利息	606,289	652,316
	事故対策基金積立利息	381,873	385,692
	過年度会費等返金	11,000	0
	予備費	0	400,000
	次期繰越金	5,906,228	3,828,228
	合計	**179,187,415**	**179,250,236**

後援会貸借対照表　2005年3月31日現在(単位:円)

借方		貸方	
預　金	111,033,054	課外活動援助基金	66,557,612
		事故対策基金	38,569,214
		次期繰越金	5,906,228
計	**111,033,054**	**計**	**111,033,054**

寄付者ご芳名

「南山大学教育研究支援」へのご協力に感謝いたします。

8月27日現在
大同生命保険(株) 様
宗教法人カトリック神言修道会 様
村松澄之 様
リンナイ(株) 様

友の会評議員会・総会 開催

南山大学を支援する地域社会の一般および法人会員により組織される「南山大学友の会」の評議員会・総会が7月13日、会員50名の出席のもと、栄の名古屋ガーデンパレスで開催された。

友の会は、外国人留学生・海外留学生・学部生への奨学金給付などを通じ、本学の教育活動に対する支援を続けている。

主な決定事項は次のとおりである。

1. 2004年度事業報告および決算報告の承認
2. 役員の改選
3. 2005年度事業計画および予算の承認

評議員会・総会終了後、加藤会長より外国人留学生奨学生・海外留学奨学生に奨学金採用通知書が授与され、それぞれの代表者が感謝の言葉を述べた。

(学長室)

南山大学の教育・研究活動にご協力いただける一般および法人の方々を募集しております。本学のより良い発展のために、皆様のご加入をお待ちしております。
詳しくは、南山大学友の会事務局(学長室内)
052-832-3113まで

数理情報学部数理科学科の学科名称変更

変更後の名称:情報システム数理学科
名称変更時期:2006年4月1日
新名称の対象年次:1年次

行事

父母の集い	10月1日 場所:名古屋キャンパス・瀬戸キャンパス
野外宗教劇	10月8日(雨天の場合10月15日) 場所:名古屋キャンパス
体験入学会	10月10日 場所:名古屋キャンパス・瀬戸キャンパス
聖南祭	10月22日～23日 場所:瀬戸キャンパス
大学祭	11月3日～6日 場所:名古屋キャンパス

詳細は本学Webページの「イベントカレンダー」をご覧ください。

訂正

NANZAN bulletin vol.153
Information「退職」
(誤)小谷凱宣教授　人文学部　　(正)削除

発行 南山大学学長室
〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18
TEL.(052)832-3113(直通)
Email:gaku-koho@nanzan.ac.jp
http://www.nanzan-u.ac.jp

Campus Topics

瀬戸キャンパス交流会「コーヒーアワー」

取材：大宮 あゆみ（総合政策学科3年）

南山大学瀬戸キャンパスでは留学生との交流イベントが開催されている。このユニークなイベントは通称「コーヒーアワー」と呼ばれ、毎月1回水曜日午後の恒例イベントとして親しまれている。

コーヒーアワーが始まったのは今から4年前。瀬戸キャンパスの留学生と日本人学生との国際交流を目的として事務スタッフの呼びかけで集まった学生によって催されたのが始まりである。この学生が南山大学インターナショナルクラブ（NICC）を立ち上げ、現在では事務スタッフと共催してコーヒーアワーの企画から運営まで全ての活動を学生主体で行っている。

コーヒーアワーでは毎回テーマが設けられ、7月は日本の夏を知ってもらおうと「夏祭り」をテーマに、輪投げやかき氷、うちわ、浴衣などで縁日を再現した。NICCの主幹を務める藤村祐里さん（総合政策学科2年）は「全てを手作りにこだわり、初めてコーヒーアワーに参加してくれた人も気軽に留学生と話せるアットホームな雰囲気作りに努めた」というだけあって大好評であった。コーヒーアワーの魅力について「今まで知らなかった国の学生とイベントを通して仲良くなり、学内で国際交流できることが大きな魅力」と平野麻奈さん（総合政策学科2年）は語る。

初めは緊張してうまく交流できなくても、ゲームやグループワークなど話しやすい環境が用意されているので、少しでも仲良くなりたいと積極的になれば交流の輪は広がる。是非この瀬戸キャンパスの醍醐味を体験してみてはどうだろう。

International Friendship

ASEACCU国際会議に参加して

参加：小瀬木 彩乃（フランス学科2年）

8月25日から28日まで、台湾のFu Jen Catholic UniversityでASEACCU国際会議が開かれた。ASEACC（Association of Southeast and East Asian Catholic Colleges and Universities）とは、東南アジア・東アジア（オーストラリア、インドネシア、フィリピン、タイ、台湾、韓国、日本）のカトリック系大学連盟である。この会議は13年前から毎年開催されており、7年前から教員だけでなく学生も参加している。今年は“Education for Life and Professional Ethics”をテーマに7カ国36校、総勢137名が参加した。

会議は全て英語で行われ、他国の学生の英語力にも驚かされ、母国語が揃わない会議における英語の大切さを実感した。言語はツール（道具）にすぎず、自分の意見を自分の言葉で人に伝えることが大切だと強く感じ、いかに自分の意見を持ち、発言し、相手の意見を聞き入れることが重要であるかと改めて気づかされた。何が争点になっているのかを見極め、熟考することが必要なのだ。私たちの置かれている文化・環境によって考えは多種多様である。

自分たちと同じ世代の学生が一同に集まり、与えられたテーマについて論じ合えたのは本当に貴重な経験であった。4日間という短い時間であったが、各国の国民性を認識し、自国をも見つめ直すことができた。そして多くの友人を得た。互いの意見を分かち合い、心から語り合える彼らはかけがえのない存在となり、友情を深めることができた。

今日、世界は一つになりつつある。このような会議は互いをよく知る上で必要であり、視野を広げる絶好の機会だ。私はこの会議に南山大学の学生代表として参加できたことを心から喜ぶと共に、このような機会が与えられたことに感謝したい。そして今後の生活の中で学んだことを生かしていきたい。

Nanzan Square

南山大学建築探訪

「GLOBE」

南山大学名古屋キャンパスの図書館前広場に、ブロンズ色の「GLOBE」と呼ばれる球形のオブジェがある。大きさは364cm×310cm。1980年完成。

円球は地球を表し、球は文字＝言葉により形作られている。さらに、縦棒と横棒が交差して作られている十字架は神の愛を象徴している。

神言会員ジョン・コンリス師 制作

私の研究

社会変化と研究スタンス

浦上 昌則

南山大学に着任して今年で9年目になります。私の力不足のためか、この8年と少しの間、満足に研究を進めることはできませんでした。ますます忙しくなる現状を考えると、何かを大きく変えないと研究者の看板を返上しなければならなくなりそうな、そんな感じもしています。

言い訳がましいスタートになりましたが、私の専門は発達心理学やキャリア研究です。人が成長していく過程で、どのようなものが、どのように影響しているのかを考えていくことです。特に青年期、高校生や大学生の進学や就職といったキャリア選択・形成に興味を持っています。

今でこそ「キャリア教育」といった話題が注目を集めていますが、私が研究を始めた1990年代はじめの頃には、あまり問題視されていませんでした。そのため研究指導を受けていた先生から、「大切な問題だけれど、注目を集めるような研究にはならないかも」と暖かい励まし（？）の言葉をいただいたこともあります。それが十数年経ってみると…。社会のあまりの変わりように私自身も驚いてしまいます。

このような社会変化にあわせるように、最近は自分で独自の研究を進めるというよりも、これまでに蓄えられてきた知識を使って、それを社会に還元していこうとするような方向へとスタンスを変えてきたように思います。たとえば昨年は、北大路書房より『就職活動をはじめる前に読む本』を上梓しました。大学1、2年生のうちに読んでおいてほしいという願いを込めた本です。また企業やNPOの方々と協働して、就職適性検査の作成に携わったり、キャリア教育のプログラムを作成したりもしました。

このような仕事は研究とは呼べないかもしれませんが、自分が学び研究してきたことを最大限に活用するチャンスでした。また、その過程でいろいろなものを学ばせてもらいました。しばらくはこのような“研究”スタンスでいきたいと考えています。

うらかみ・まさのり
人文学部心理人間学科
助教授

専攻分野は「発達心理学」「キャリア研究」。
長期研究テーマは「20代から30代にかけての心的発達」。
主な著書は「心理学 Introduction to Psychology」「就職活動をはじめる前に読む本」。
担当科目は「発達心理学」など。

第10回 私のクラス

「教師と学生との対話を通じて学ぶ」

町村 泰貴

私は法科大学院（大学院法務研究科）で主に「民事訴訟法」を教え、学部と法科大学院の双方で「情報法」を担当している。

法科大学院での授業は、設例と裁判例、質問を記載した教材があらかじめ配布され、予習が求められる。クラスルームでは、私がアトランダムに学生を指名し、その日の重要な判例の事実関係や判決内容の説明を求める。問題はそれからだ。

「Aさん、この判決はどの点がポイントなのでしょうか?」

「Bくん、昭和58年のこの判決と、同じような事例で平成12年に出たこの判決とはどの点が違うのですか?」

「Cくん、この判決の事案を少し変えて、契約に基づく主張をしていたとすれば、裁判所はどのように判断することになりますか?」

このような次々と出てくる質問に、学生達はそれぞれ知恵を絞って答えなければならない。あらかじめ教材に出てくる質問でも、その答えによってはさらなる質問や観点の違う質問に発展することがあり、問題点を様々な観点から、しかも自分の頭で考えることが要求されるのだ。

法科大学院では、弁護士や裁判官、検察官などが行う法律実務の基礎を学ぶとともに、法律家に必要な基本的法律知識を学ぶ。研究者だけでなく、実務家教員の参加を得て、理論と実務の双方をにらんだ教育がなされる。

教育内容だけではなく、教育方法の面でも双方向のやりとりを中心とする授業や、実務のシミュレーションを取り入れた授業、ロールプレイを取り入れた授業、そして実際の法律事務所で研修を積むエクスターンシップなど、多様な方法を用いて、効果的な教育を目指している。私の授業では基礎理論を学ぶので、なかなかシミュレーションやロールプレイを用いる機会は持てないが、いずれは取り入れてみたいと考えている。

こうした教育スタイルの目的は、「法律家のように考えるThink like lawyers」能力を身につけさせることであり、それなりに手間がかかるし、幅広い知識を身につけることには向いていない。その部分は、学生が自学自習で身につけることを予定している。そのためにも、予習は幅広く、授業では思考を鍛え、復習でアウトプットすることが要求されるのだ。

まちむら・やすたか
法務研究科教授

専攻分野は「民事訴訟法」「サイバー法」。
長期研究テーマは「紛争処理過程における当事者の役割」。
主な著書は「民事訴訟法」（青林書院）。
担当科目は「民事訴訟法」など。

Career Support Program

キャリア教育の全学的取組を開始

キャリアサポートプログラム「先輩と熱く語ろう!」(2005.6.29)

今日の我が国は、自らの職業人生を多分に会社任せにしてきた時代から、自ら職業人生を切り拓くことが出来る自立した人材が求められる自己選択・自己責任の時代に移行してきています。企業の学生への期待も例外ではなく、学生の学力・自立心・職業観の3局面の質を問う厳選採用が定着し、厳しい就職環境となっています。

一方、将来の目標が見つからないまま、あるいは、やりたいことや夢はあるものの、どうしたらいいのか分からないまま就職活動の時期を迎え、社会の厳しい現実に直面して初めてそのハードルの高さと学生生活の重要さに気付き、悩み苦しむ学生も少なくありません。学生の就職意識は多様化し、フリーターも選択肢の一つとなっているのが現状です。

南山大学では、本年4月に「キャリア教育推進委員会」を設置し、就職支援にとどまらず、学問の方法を身につけさせ、自立心を育み、職業理解を促す、すなわち、「職業的未来の準備」を培う「キャリア教育」の全学的取組を開始しました。主たる対象は1～2年次生で、「キャリアサポートプログラム」を策定し、春学期は新入生ガイダンス、学部別学び方講座、先輩と語り合う会等を実施し、秋学期は今後の将来を考え、学生生活を送る上での目標を発見できるようなプログラム(講演会、ワークショップ等)を計画しています。

本学のキャリア支援体制は下図のとおりです。これらを積極的に活用し、将来の可能性を広げてください。

(キャリア支援室長　板井 升義)

キャリア支援体制

1年次	2年次	3年次	4年次
キャリアサポートプログラム			
		インターンシップ	
		就職支援プログラム	
			進路・就職相談
南山エクステンション・カレッジ(学生向け資格講座)			

現代GP採択

平成17年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(テーマ:仕事で英語が使える日本人の育成)」(文部科学省)において、総合政策学部(瀬戸キャンパス)の「学部教育と英語教育のシナジー的アプローチ～多様性への対応と学習モチベーションの継続的上昇に向けて～」が採択されました。

総合政策学部では、名古屋キャンパスにおける英語教育の貴重な経験を基礎に、独自の英語プログラムの構築に努めてきました。2004年度には全ての必修英語科目において習熟度別クラス編成を実現し、授業内容についても、学科科目になるべく関連したトピックを取り上げ、英語力に加えて思考力も養成するような授業を試みています。また授業外における英語学習を促進するために、多読教材やサーバー教材の利用・導入を積極的に行うとともに、English　Loungeを昼休み時間に開催し、学生たちが英語によるディスカッションや講演に自主的に参加できる機会を設けました。これらの試みに加え、来年度からはWorld Plaza(異言語・異文化学習スペース)設置、国内英語合宿形態授業の開講等を予定しており、学生たちが高いモチベーションを持って学習ができるような環境の整備に努めています。

本学の学生が胸をはって「南山で英語を学んだ」と言えるように、英語教育プログラムの継続的改善に向けて今後も努力をしていく所存ですので、皆様のご支援をいただきたく存じます。

(取組責任者・総合政策学部助教授　渡辺 義和)

http://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/nepas/

英語合宿

教員養成GP採択

平成17年度「大学・大学院における教員養成推進プログラム」(文部科学省)に、大学院人間文化研究科教育ファシリテーション専攻ならびに人間関係研究センターの「豊かで潤いのある学びを育むために―ラボラトリー方式の体験学習を通した豊かな人間関係構築を目指して―」が採択されました。本プログラムは、本学の教員養成における伝統と実績に基づいた、本学の教育のモットーである「人間の尊厳のために」を具現化する教員養成推進プログラムです。

人間関係研究センターは、南山短期大学人間関係研究センターを母体として2000年度に発足し、一方、人間文化研究科教育ファシリテーション専攻は人文学部心理人間学科と深い結びつきをもち2004年度の大学院改組により、本学に生まれました。本プログラムは、この両者の有機的な連携のもと、ラボラトリー方式による体験学習を中心とした公開講座や学校へのコンサルテーションなどにより、生徒一人ひとりが生き生きする人間関係づくりの体験学習プログラムの提供とラボラトリー体験学習を実施できる教員の再教育プロジェクトです。

今後は本学教員の教育・研究の成果を小・中学校の義務教育をはじめとする学校教育現場により積極的に活用し、教員の教育力の向上に寄与するとともに、地域社会に広く貢献していきたいと考えています。今後ともご理解、ご協力をお願いいたします。

(教育ファシリテーション専攻主任・
人間関係研究センター長　津村 俊充)

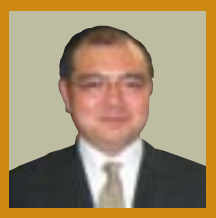
http://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/gp/teacher/

人間関係研究センター講座

Feature Article
特集

南山大学人類学博物館 ・・・・・・に行ってみよう!

南山大学には隠れた名所があります。それは人類学博物館。場所はG棟地下という目立たない場所ですが、そこには南山大学におけるこれまでの人類学研究の成果が残されています。これからもたくさんの人に来てもらって、南山大学の誇る知的財産を知ってもらいたいと思います。



人文学部人類文化学科助教授
人類学博物館運営委員会委員長
黒沢 浩

Q1 「南山大学人類学博物館」にはどんな資料が展示されていますか。

A:展示室は資料の種類によって分かれており、第1展示室が考古学、第2展示室が民俗資料(生活資料)、第3展示室が民族資料(人類学資料)です。

第1展示室には、戦後まもなく南山大学で教鞭をとっていたこともあるヨハネス・マリンガー神父が収集したヨーロッパの旧石器、また同じ神言会の神父であり、戦中・戦後の日本の考古学に尽力したジェラード・グロート神父が主宰した日本考古学研究所収集による関東地方の縄文時代貝塚の資料、そして南山大学が独自に調査した東海地方の旧石器・縄文・弥生・古墳・古代の各時代にわたる資料が展示されています。特に、茨城県花輪台貝塚出土の土偶は日本で最古の土偶とされています。

第1展示室

第2展示室にいくと、お父さん・お母さんの世代には懐かしい、昭和の家電製品が展示されています。第2展示室は民俗資料ではないのか、という声が聞こえてきそうです。たしかに民俗資料というと、農村・漁村・山村の道具というイメージが強いと思います。

もちろんそういった資料も、人類学博物館には収蔵されていますが、ここで敢えて昭和の家電製品を民俗資料に位置付けているのは、都市生活の民俗に注目するからです。家電製品の普及で都市生活がどのように変化したのか、展示を通じて思い出してください。

博物館実習生による展示

第3展示室には上智大学が1970年代に調査したタイ西北部山地民族に関する資料と、南山大学の調査によるニューギニアの資料が展示されています。タイ西北部の資料には、ヤオ族をはじめとした様々な民族の衣裳やアクセサリー・生活道具があり、同時代の日本の民俗資料と比較することで、世界の人びとの多様な生活を知ることができます。

ニューギニアの資料は、やはり南山大学の先生であったアウフェナンガー神父の収集品が中心です。たくさんの祖霊像など、われわれとは異質な世界観に惹きつけられます。

Q2 人類学博物館に考古学の展示室を設けているのはなぜですか。

A:考古学って人類学なの?と思う方もいるかもしれませんので、ちょっと説明しましょう。日本では考古学は歴史学の中に位置付けられています。これは多くの大学で考古学の講座が文学部史学科に置かれていることからもわかります。しかし、アメリカでは考古学は人類学に位置付けられているのです。もちろん、南山大学の人類学研究の成り立ちはアメリカのものとは違います。しかし、日本で考古学が人類学の一領域とされていることは、珍しいケースであり、南山大学における人類学・考古学研究を特色づけているのです。

大須二子山古墳出土の馬具

Q3 特徴は何ですか。

A:我々は、これらの資料をただ展示して見てもらうだけではありません。より深く資料について理解してもらうために、様々なレファレンスを用意しています。

まず、図書室を整備し、誰でもが閲覧できるようになっています。気になるテーマ、関心のあることを調べてもらうためのお手伝いです。また、図書だけでなく、ビデオなどの映像資料やカセットテープ・CDなどの音源も充実しています。

また、最近、多くの博物館で昭和30年代がテーマとなっており、人気を博しています。実はそうした現在の人気に先駆けて、昭和30年代に注目したのが南山大学人類学博物館であったことは自慢できることだと思います。

Q4 今年度から「博物館講座」を開講していますが、どのようなものですか。

A:各分野の専門家による人類学博物館の資料の解説です。5月から来年1月の間、計8回の講座を開講しています。定員は30名とやや少ないのですが、募集開始後

博物館講座

すぐに定員に達し人気があることがわかります。このような講座を開講したのは実際に資料に触れてもらいたいからです。

Q5 学芸員養成にも力を入れていますね。

A:南山大学人類学博物館は博物館相当施設として法的に認められた博物館です。そのことから博物館実習の授業をおこない、将来の学芸員の育成に力をいれています。昨年(2004年)からは博物館実習生による企画展を行うことにしました。

博物館実習での展示作業

Q6 最後に、「南山大学人類学博物館」に興味を持たれた方にメッセージをお願いします。

A:人類学博物館では展示だけでなく、様々な活動を実施して、多くの人に南山大学での研究の素晴らしさ、楽しさを知ってもらいたいと思っています。まだまだ、改善の余地は多いのですが、是非とも一度、人類学博物館に足を運んでください。

行事日程等の詳しいことは、webページをご覧ください。

「南山大学人類学博物館利用案内」

開館時間 月曜～土曜 10:00～16:30
休 館 日 日曜・祝日 大学の事務休業日
問合せ先 南山大学人類学博物館
052-832-3111(内線445)
URL
http://www.nanzan-u.ac.jp/MUSEUM/

度末から約54億円増加している。資金収支計算書のところで述べた現預金の増加に加え、大学院関連で取得した校舎（法科大学院棟、数理情報棟）、名古屋キャンパスにおける耐震工事の実施等により固定資産が約38億円増加している。負債は約2億円減少している。本学は1989年J棟建設時以来借入を行っていないため、前受金や未払金、あるいは引当金により若干の変動はあるものの、基本的に負債については過去に行った借入の返済分が減少していくこととなる。基本金は約50億円増加している。計画的な積立金である2号基本金は1億円増、資産取得に伴う1号基本金は約49億円増加している。固定資産は約38億円の増加であったが、ここには減価償却や除却による減少が加味されている。一方1号基本金は固定資産の減少による取り崩しができず、固定資産の増加分のみが反映されるため、資産の増加とは金額的に乖離することになる。消費収支差額の部は、過去からの累積となるが、2004年度が収入超過決算であったことにより、累積の消費支出超過額が若干減少した。

第4表は、消費収支計算書と貸借対照表に関連した財務比率であり、他大学との比較を行っている。ほぼ平均並みあるいは平均を上回っているが、注意を要すべきは、基本金組入率の低さである。基本金組入率が低い場合は、必要な設備投資を行っていないケースが多い。本学の場合も、単年度収支改善のため、校舎の改修で一部先送りしているものがある。逆に特筆すべきは人件費比率の低さである。一般には50％が目安といわれているが、本学は46.2％とかなり低くなっている。事務の効率化とアウトソーシング活用の結果であろう。今後は、アウトソーシングの経費を含め、業務処理にかかる人的経費全体を抑制していくことが課題である。

第3表　貸借対照表（2005年3月31日現在）

科目	2004年度末	2003年度末	増減
資産の部			
固定資産	**23,905,632**	**20,048,413**	**3,857,219**
有形固定資産	22,421,263	18,616,403	3,804,860
土地	1,317,011	1,120,974	196,037
建物	14,237,660	10,667,825	3,569,835
構築物	576,588	520,916	55,672
教育研究用機器備品	928,830	1,217,711	△ 288,881
その他の機器備品	54,719	21,553	33,166
図書	5,204,128	5,064,243	139,885
車両	102,327	3,181	99,146
その他の固定資産	1,484,369	1,432,010	52,359
電話加入権	5,162	5,162	0
施設利用権	16,988	8,390	8,598
長期貸付金	522,219	578,458	△ 56,239
退職給与引当特定資産	140,000	140,000	0
南山大学教室棟整備資金	600,000	600,000	0
南山大学グラウンド整備資金	200,000	100,000	100,000
流動資産	**12,633,848**	**11,055,322**	**1,578,526**
現金預金	12,513,574	10,603,551	1,910,023
未収入金	92,676	419,985	△ 327,309
短期貸付金	358	1,359	△ 1,001
立替金	1,056	1,209	△ 153
前払金	22,895	28,027	△ 5,132
貯蔵品	3,289	1,191	2,098
資産の部合計	**36,539,480**	**31,103,735**	**5,435,745**

科目	2004年度末	2003年度末	増減
負債の部			
固定負債	**1,483,440**	**1,740,890**	**△ 257,450**
長期借入金	177,760	288,860	△ 111,100
退職給与引当金	1,305,680	1,452,030	△ 146,350
流動負債	**2,880,233**	**2,847,674**	**32,559**
返済期限が1年以内の長期借入金	111,100	111,100	0
未払金	111,631	99,402	12,229
前受金	2,303,031	2,235,099	67,932
預り金	354,471	402,073	△ 47,602
負債の部合計	**4,363,673**	**4,588,564**	**△ 224,891**
基本金の部			
第1号基本金	32,404,065	27,471,800	4,932,265
第2号基本金	800,000	700,000	100,000
第3号基本金	5,284,732	5,249,706	35,026
第4号基本金	715,200	696,500	18,700
基本金の部合計	**39,203,997**	**34,118,006**	**5,085,991**
消費収支差額の部			
翌年度繰越消費収入（△支出）超過額	△ 7,028,190	△ 7,602,835	574,645
消費収支差額の部合計	**△ 7,028,190**	**△ 7,602,835**	**574,645**
負債の部、基本金の部、消費収支差額の部合計	**36,539,480**	**31,103,735**	**5,435,745**

（注記）
1.建物・構築物等の減価償却額累計額の合計額 10,431,214千円　2.徴収不能引当金の合計額 27,468千円　3.担保に供されている資産の種類および額は、次のとおりである。 土地　134,800円　4.退職給与引当金の額の算定方法は次のとおりである。期末要支給額4,168,193千円の40％を基にして、私立大学退職金財団に加盟しているため調整額を加減した金額を計上している。　5.借入金の返済に伴い翌年度以降の会計年度において基本金への組入れを行うこととなる金額 249,980千円　6.名古屋キャンパスの敷地の一部については法人本部に計上されており、上記貸借対照表の土地及び第1号基本金には含まれていない。この土地取得費については、1997年度より毎年法人本部費配賦額により2億円ずつ負担し、2031年度まで合計7,161,350千円を負担することになる。　7.第3号基本金に対応する引当資産は法人本部にて手当てされている。

第4表　財務比率

消費収支関連

比　率	計算式	南山大学 2002年度	南山大学 2003年度	南山大学 2004年度	他大学 2003年度	評　価
人件費比率	人件費／帰属収入	48.2％	52.3％	46.2％	49.3％	↓
人件費依存率	人件費／学生納入金	61.1％	66.4％	58.0％	58.8％	↓
教育研究経費比率	教育研究経費／帰属収入	26.3％	26.5％	28.4％	26.8％	↑
管理経費比率	管理経費／帰属収入	7.4％	7.3％	7.2％	6.9％	↓
借入金等利息比率	借入金等利息／帰属収入	0.3％	0.2％	0.2％	0.4％	↓
学生生徒等納付金比率	学生納入金／帰属収入	79.0％	78.8％	79.6％	83.9％	↑
補助金比率	補助金／帰属収入	7.8％	8.0％	8.5％	7.4％	↑
基本金組入率	基本金組入額／帰属収入	5.8％	5.5％	7.9％	10.9％	↑
減価償却費比率	減価償却額／消費支出	9.8％	7.3％	11.7％	11.1％	～

帰属収入に対する比率

比　率	南山大学2004年度	他大学2003年度
A ＝ 人件費	46.2％	49.3％
B ＝ 教育研究経費	28.4％	26.8％
C ＝ 管理経費	7.2％	6.9％
D ＝ その他の消費支出額	4.5％	1.2％
E ＝ 基本金組入額＋消費収支差額	13.7％	15.6％

貸借対照表関連

比　率	計算式	南山大学 2003年度	南山大学 2004年度	他大学 2003年度	評　価
自己資金構成比率	（基本金＋消費収支差額）／総資金	85.2％	88.1％	85.9％	↑
消費収支差額構成比率	消費収支差額／総資金	△ 24.4％	△ 19.2％	△ 1.0％	↑
流動比率（※）	流動資産／流動負債	203.9％	255.2％	270.2％	↑
減価償却比率	減価償却累計額／減価償却資産取得価額	42.9％	40.1％	37.8％	～
総負債比率	（固定負債＋流動負債）／総資産	14.8％	11.9％	14.1％	↓
負債比率	総負債／（基本金＋消費収支差額）	17.3％	13.6％	16.4％	↓

（注）他大学の数値は、日本私学振興・共済事業団平成15年度版「今日の私学財政」より、消費収支関連については文他複数学部の大学部門の平均を、貸借対照表関連は文他複数学部を有する大学法人の法人全体の平均をそれぞれ掲載した。評価は、それぞれの大学の特殊性があり一概にはいえないが、一般的には「↑」は数値が高い方がよく、「↓」は数値が低い方がよく、「～」はどちらともいえないとされている。
総資金＝負債＋基本金＋消費収支差額
（※）南山大学の流動比率は流動資産から第3号基本金額を差し引いた額を分子とした。

■2005年度予算について

2005年度予算において、重点項目としている事業は次のとおりである。

（1）新教室棟建設の着手

完成、取得は2006年度となるが、建築は2005年度中に着手する。そのため、費用の一部は2005年度に発生する。

（2）既存施設改修

先送りされてきた改修計画を優先的に実施する。特に汚損の目立つ校舎内壁の美化工事を優先し、防水工事、空調機改修工事等を順次実施する。

（3）個人情報保護法への対応

本学が制定した「個人情報保護にかかるガイドライン」に基づき、個人情報保護のために必要となる各種システム変更を行う。

私立学校法の改正により、2005年度から私立学校に財務情報公開が義務付けられた。本学では、法改正以前から財務状況を広く公開し、大学運営の透明性を高めるとともに、財政面における自己点検・評価を重ねてきた。今後もこの姿勢を持ち続ける所存であり、ご支援を賜りたい。

（大学事務部長　会沢 俊昭）

第5表　2005年度 資金収支予算書（2005年4月1日から2006年3月31日まで）

（単位:千円）

収入の部 科目	予算額
学生納付金収入	9,984,365
（授業料）	(6,984,256)
（入学金）	(1,049,370)
（実験実習料）	(58,797)
（施設設備費）	(1,891,942)
手数料収入	663,009
（入学検定料）	(569,494)
（その他の手数料）	(93,515)
寄付金収入	168,000
補助金収入	991,973
資産運用収入	164,538
資産売却収入	1,900
事業収入	178,218
雑収入	110,235
前受金収入	2,195,198
その他の収入	2,344,495
資金収入調整勘定	△ 2,426,327
前年度繰越支払資金	12,513,574
収入の部合計	**26,889,178**

支出の部 科目	予算額
人件費支出	6,281,318
（教員人件費）	(4,375,565)
（職員人件費）	(1,729,653)
（退職金）	(176,100)
教育研究経費支出	2,647,034
管理経費支出	854,370
借入金等利息支出	14,112
借入金等返済支出	111,100
施設関係支出	528,101
設備関係支出	327,116
資産運用支出	400,000
その他の支出	1,653,962
法人本部費配賦額	578,169
[予備費]	61,306
資金支出調整勘定	△ 93,756
次年度繰越支払資金	13,526,346
支出の部合計	**26,889,178**

（注）予算額は補正予算額。

第6表　2005年度 消費収支予算書（2005年4月1日から2006年3月31日まで）

（単位:千円）

消費収入の部 科目	予算額
学生納付金	9,984,365
手数料	663,009
寄付金	169,000
補助金	991,973
資産運用収入	164,538
資産売却差額	3
事業収入	178,218
雑収入	110,236
帰属収入合計	**12,261,342**
基本金組入額合計	**△ 839,843**
消費収入の部合計	**11,421,499**

消費支出の部 科目	予算額
人件費	6,105,218
教育研究経費	3,593,577
（内、減価償却額）	(946,543)
管理経費	975,625
（内、減価償却額）	(121,255)
借入金等利息	14,112
資産処分差額	11,200
徴収不能引当金繰入額	1,720
[予備費]	61,306
法人本部費配賦額	578,169
消費支出の部合計	**11,340,927**
当年度消費収入超過額	**80,572**
前年度繰越消費支出超過額	**△ 7,028,190**
翌年度繰越消費支出超過額	**△ 6,947,618**

（注）予算額は補正予算額。

南山大学　2004年度決算　2005年度予算

教育・研究環境整備と財務体質の強化に向けて

2004年度は、2000年度に設置・改組した学部が2003年度に初の卒業生を送り出すのに期を合わせ、大学院が新たなスタートを切った年であった。名古屋キャンパスに人間文化研究科、国際地域文化研究科、法務研究科、瀬戸キャンパスに総合政策研究科、数理情報研究科の計5研究科を開設した。法務研究科は、南山大学では初となる専門職大学院である。2005年度は、博士課程と専門職大学院であるビジネス研究科（ビジネススクール）の設置申請を行う。新たな教室棟の建築も検討され、2006年度末完成、2007年度からの使用を予定している。様々な事業を今後も継続して実施していくためには、基となる財務体質を強化していかなければならない。

本学では、「南山BULLETIN」において財政状況を公開し、透明性の確保に努めてきた。今回は、2004年度決算および2005年度予算について、財務諸表とともに説明する。

■2004年度決算について

第1表の「資金収支計算書」は、年度内の資金（現預金）の流れを表したものであり、収入の部の最後にある前年度繰越支払資金が年度当初の資金残高、支出の部の最後にある次年度繰越支払資金が、年度末時点での資金残高である。2004年度1年間の諸活動により、資金が約21億円増加した。

2003年度は、大学院開設のための設置経費を約40億円負担しており、資金の減少が大きかった。2004年度はこういった特殊事情がなかったため、結果として資金が増加したと言える。他の要因としては、収入面では、寄付金、補助金および資産運用収入の増加が挙げられる。支出面では、退職者減による人件費（退職金）の減少、耐震工事の工法変更による費用の削減等が挙げられる。

第2表の「消費収支計算書」は、消費収入と消費支出の均衡を表している。消費収入とは、帰属収入（学生納付金等負債とならない収入）から設備投資、将来の資産取得のための積立金等による基本金組入額を差し引いたものである。消費支出は単年度の経費である。

2004年度は、約7億円の収入超過となった。2003年度は約35億円の支出超過であり、収支が大幅に改善しているが、要因は前述の資金収支計算書における資金増とほぼ同様のものに加え、大学院新設と学部受入学生の増加に伴う学生納付金の増加が挙げられる。学生増は新入生が大半であり、この学生納付金は2003年度の資金収入に前受金として計上されているため、消費収入の増加のみ2004年度に反映される。退職金については、消費収支計算では退職給与引当金で充当するため、消費支出には反映されない。累積の消費収支差額が約70億円の支出超過である点を考慮し、2005年度以降も継続して経費の削減に取り組むとともに、2004年度の収入超過分は、累積支出超過の削減に充てることとした。

第3表の「貸借対照表」は、2004年度末時点での、資産および負債の状況を表している。資産は2003年

第1表　2004年度 資金収支計算書（2004年4月1日から2005年3月31日まで）　（単位:千円）

収入の部			支出の部		
科目	予算額	決算額	科目	予算額	決算額
学生納付金収入	9,752,122	9,778,307	人件費支出	6,059,076	5,820,550
（授業料）	(6,826,551)	(6,848,090)	（教員人件費）	(4,186,146)	(4,055,086)
（入学金）	(1,030,150)	(1,030,310)	（職員人件費）	(1,731,530)	(1,619,114)
（実験実習料）	(38,299)	(37,466)	（退職金）	(141,400)	(146,350)
（施設設備費）	(1,857,122)	(1,862,441)	教育研究経費支出	2,618,444	2,368,610
手数料収入	684,396	696,967	管理経費支出	829,661	772,078
（入学検定料）	(589,804)	(599,922)	借入金等利息支出	19,764	19,408
（その他の手数料）	(94,592)	(97,045)	借入金等返済支出	111,100	111,100
寄付金収入	187,820	249,499	施設関係支出	595,779	550,235
補助金収入	950,520	1,042,543	設備関係支出	307,686	302,070
資産運用収入	197,169	229,072	資産運用支出	100,000	100,000
資産売却収入	1,690	1,317	その他の支出	1,695,845	1,526,210
事業収入	156,799	163,548	法人本部費配賦額	524,861	506,328
雑収入	107,787	119,582	資金支出調整勘定	△ 110,080	△ 126,710
前受金収入	2,173,367	2,303,031	次年度繰越支払資金	11,398,789	12,513,574
その他の収入	1,936,052	1,839,415			
資金収入調整勘定	△ 2,600,348	△ 2,369,912			
前年度繰越支払資金	10,603,551	10,410,084			
収入の部合計	**24,150,925**	**24,463,453**	**支出の部合計**	**24,150,925**	**24,463,453**

（注）予算額は補正予算額。

第2表　2004年度 消費収支計算書（2004年4月1日から2005年3月31日まで）　（単位:千円）

消費収入の部			消費支出の部		
科目	予算額	決算額	科目	予算額	決算額
学生納付金	9,752,122	9,778,307	人件費	5,917,676	5,674,201
手数料	684,396	696,967	教育研究経費	3,750,030	3,491,945
寄付金	188,820	252,084	（内、減価償却額）	(1,131,586)	(1,123,336)
補助金	950,520	1,042,543	管理経費	940,814	888,043
資産運用収入	197,169	229,072	（内、減価償却額）	(111,013)	(115,965)
資産売却差額	0	1	借入金等利息	19,764	19,408
事業収入	156,799	163,548	資産処分差額	17,754	17,753
雑収入	107,796	119,608	徴収不能引当金繰入額	805	3,520
帰属収入合計	12,037,622	12,282,130	法人本部費配賦額	524,861	506,328
基本金組入額合計	**△ 1,011,253**	**△ 975,587**			
消費収入の部合計	**11,026,369**	**11,306,543**	**消費支出の部合計**	**11,171,704**	**10,601,198**
			当年度消費収入超過額		**705,345**
			当年度消費支出超過額	**145,335**	
			前年度繰越消費支出超過額	**7,602,835**	**7,733,535**
			翌年度繰越消費支出超過額	**7,748,170**	**7,028,190**

（注）予算額は補正予算額。